

科学技術に関する学習の支援～国際科学技術コンテスト支援

他機関との連携により青少年向けの国際科学技術コンテストを支援し、各地域における青少年の知的好奇心・探求心に応じた科学技術学習機会の充実を図る。

期待される効果

- ・ 科学技術に対し関心を有する生徒に達成目標を与え、個性を伸長
- ・ 将来有為な生徒が国際舞台の厳しさを体験する場を安定的に創出
- ・ **各コンテストに関連する分野についての国際的な状況・情報が主催団体（学会）等へ還元**されることでの我が国の科学技術に関する知識普及や人材育成の在り方の改善
- ・ スーパーサイエンスハイスクール等の生徒の参加による既存の人材育成の取組の質的向上
- ・ 結果がわかりやすい形で発信されることによる科学技術を支える人材育成についての社会的関心の向上

国際的な大会につながる科学技術コンテストの参加・開催への支援



実施コンテストは、公募の上、「国際科学技術コンテスト支援事業推進委員会」（委員長：日本学術会議会長 金澤 一郎氏）が対象となるコンテストを選考。JSTが国内予選の開催、国際大会参加選手に対する強化訓練、国際大会参加等に係る経費を支援。

国際科学技術コンテストの課題

- ・ 各種の国際科学技術コンテスト（例：各種科学オリンピック）への参加は、当該分野の人材育成に使命感を持つ団体による国内予選等の運営により担われている。
- ・ 人材育成を目指した科学技術コンテストにおける裾野拡大や質的向上、広がりある運営活動のためには、**関連学会等との密接な連携が重要。** ➡ **学会等による更なる活動支援が望まれる。**

7つの科学のオリンピックで多くの生徒が羽ばたく
(国際科学技術コンテスト支援事業)

3コンテストの新設、4コンテストの充実により児童生徒の発展的な学習機会を拡充。世間の注目も大幅に増加。新聞等掲載記事数：事業発足前対比323%増。



取り組みの例

「科学技術理解増進」

- 「サイエンスアゴラ」 <http://www.scienceagora.jp/>

サイエンスコミュニケーション活動を結集して一つの間で行うことで、社会に対して認知をはかり、人々がサイエンスコミュニケーション活動に参加するきっかけとする、

研究機関・ファンディングエージェンシー・科学技術広報・科学館など、科学技術に関係をもつ様々なセクションが交流をはかることで、研究活動、コミュニケーション活動がより潤滑に行われるようにする、

日本全国のサイエンスコミュニケーターが結集する機会を作ることで、お互いの活動を共に知り合い、全体として活性化する機会とする、

の3つを目的とし、JSTは、**日本学術会議 科学と社会委員会 科学力増進分科会との共催**で、平成18年11月25日(土)から27日(月)まで、東京・お台場の国際研究交流大学村で「サイエンスアゴラ2006～科学と社会をつなぐ広場をつくる～」を開催。

3日間ほぼ晴天にも恵まれ、83の団体の参加と、132名の登壇者、合計100の出展を得て、1500名以上の方に御参加頂いた。



シンポジウム「SFによる科学コミュニケーション-日本沈没を題材に」

取り組みの例

「研究開発交流・支援～国際交流」

○「日米先端工学(JAFOE)シンポジウム」 (Japan-America Frontiers of Engineering Symposium)

概要: 4つの異なるセッションテーマで構成した3日間のシンポジウムを毎年日米交互に開催。科学技術振興機構(JST)、米国工学アカデミー(NAE)、日本工学アカデミー(EAJ)の共催。JAFOE一般参加者の推薦を日本学術会議第3部会員(理学・工学部門)に依頼。

目的

- 日米の工学分野で研究・開発に携わる若手研究者に産学官連携の場を提供
- 工学における次世代リーダー間のネットワークの形成
- エース級人材の育成
- 共同研究や分野横断的な新技術の移転

http://www.jst.go.jp/inter/jst_04.html

【活動・成果】これまで6回のシンポジウムを開催

第7回シンポジウム(予定)

日程: 平成19年11月5日(月)～7日(水)

場所: ヒューレットパカード社

(米国カリフォルニア州パロアルト)

セッションテーマ:

Human-Computer Interaction

Battery Technologies

Materials for Medicine

Rocketry / Aerospace

Next-Generation Data Center

日本側研究者約30名が出席予定



発表内容はJ-STAGEに搭載

報告書



成果



ポスターセッション風景

シンポジウム参加者の9割より、シンポジウムセッション外のインフォーマルな場から、研究に有益なヒントや情報を得られたと評価する旨報告されている。(第5回シンポジウムの例)

その他共同研究に結びついた例が15件ほど、国際会議への招待や講演依頼、学生の受け入れ、論文投稿依頼etcが報告されている



発表風景